農村ホームステイで新潟の様々な暮らしを体験。

新潟県では複数の市町村が連携し、県内広域での分泊も実施しています。
海のあるまち、棚田の広がるまち、越後平野の広いまち、山のまち——各地域の文化をそれぞれが体験して持ち寄ることで、
新潟の多様性、ひいては日本の文化の奥深さを体験することにつながります。

体験モデルケース ／ 4日間の中学生のスプリングキャンプの事例

Day1・2

阿賀町で全員集合
アクティビティ・体験学習

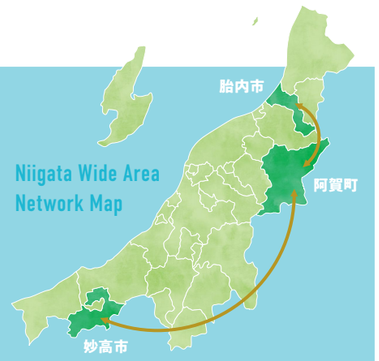
- オリエンテーション
- 麒麟山トレッキング・自然体験
- 田植え体験（全員共通）
- 選択制の体験学習（陶芸・ハーブ体験・狐面の絵付け・和紙のランプづくりなど）



Day1 @阿賀町
麒麟山トレッキング



Day2 @阿賀町
田植え体験



Day3

阿賀町・妙高市・胎内市へ
広域分散民泊

- クラスごとに阿賀町・妙高市・胎内市へ移動・分散
- 各地域で農家との対面式
- 各家庭での農作業体験（野菜の苗植え・山菜採り・椎茸の駒打ち・夕食づくりなど）
- 民泊（各農家に分宿・家族との夕食と交流）
- 地域ごとに異なる文化・暮らしを体感



Day3 @阿賀町・胎内市・妙高市
農村ファームステイ・新潟の暮らし体験

Day4

各家庭での朝食
最後の交流

- 離村式
- 昼食後、集合場所へ戻り解散
- 振り返りシート・感謝のメッセージ作成
- 帰路・バス内などでのグループ共有
- 事後学習教材を活用した学校での発表へ



Day4 @各地域
離村式から帰路へ

COLUMN 03 — 地方と企業の新しい関わり方

教育旅行・研修旅行を契機に、地域と企業をつなぐ。

企業の社会的責任（CSR）や環境・社会・ガバナンス（ESG）が叫ばれる中、「地域との関わり」をどう実装するかが多くの企業や組織にとって未解決の課題となっています。
実は教育旅行や研修旅行はその入口になりえるものです。棚田の稲刈りを手伝い、農家の話を聞き、地域の現実に触れたあとは、帰宅後も「あの地域のために何かできないか」と考え続けます。
それが学校・企業と地域が継続的につながるきっかけに。一度きりの体験で終わらせず、来訪後も関係が続く仕掛けをわたしたちは用意しています。

COLUMN 04 — セミパブリックという視点

「パブリック」でも「プライベート」でもない、セミパブリックな場としての農山漁村。

農山漁村は行政でも民間でもない、コミュニティが運営するセミパブリックな場であるとも言えます。
棚田の維持管理、漁港の運営、里山の保全——地域住民だけでは担いきれなくなっている現状に、学校や企業が「ユーザー」としてではなく「担い手」として関わることで、新しい地方と学校・企業の関係が生まれます。
除雪ボランティアや農作業支援——小さな関わりの積み重ねが、学校・企業のパーパスと地域の持続可能性を同時に育てていく可能性も。
新潟での体験はその最初の一歩になりえます。

新潟県 広域受入ネットワーク　県と地域協議会が One Team で動きます。

にいがたグリーンツーリズムセンターは、県内各地域の受入地域協議会を取りまとめる広域連携機関です。ネットワークを活かして学校・企業の目的に応じた最適な受入先をマッチング。企画段階の不安から、調整、現場の支援まで窓口を一本化し、チーム新潟でサポートします。地域ごとの縦割りではなく、テーマでつながる横の連携が新潟の強み。「できないから断る」ではなく「どう実現するか」を検討、柔軟に対応します。

広域ネットワーク最適マッチング
安心・安全の一括リスク管理
オーダーメイド設計
事前〜事後までトータル支援

Planning & Flow　ご相談から実施まで（目安 6〜12ヶ月）

1. **相談・ヒアリング**
   目的・学習目標・日程・人数・予算を共有。「こんなことできる?」だけでOK
2. **地域調整・設計**
   受入先マッチング・行程案・概算見積・民泊家庭の選定・安全計画の立案
3. **プログラム化**
   コンテンツ詳細設計・下見対応・説明会サポート
4. **実施・振り返り**
   当日コーディネーター現地同行・事後WS実施・フォローアップ

プログラムのご相談・資料請求・お見積りはお気軽に。
にいがたグリーン・ツーリズムセンター（新潟県農林水産部地域農政推進課）
〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4-1　Tel 025-280-5707

※本パンフレットのデザイン・写真はイメージです。

ニイガタの教育・研修旅行で、世界の見方が変わる。



「なんだこれ？」「へえ、そうなんだ！」が広がる時間。
来てみないとわからない、新潟そしてニッポンの本当の姿。
新潟ならではの言葉や風景、土地の恵みの中で、五感を使って「日本のルーツ」を体験する。
教室や会議室では得られない本質的な学びが、ここにある。
人と出会い、暮らしに触れ、価値観が揺さぶられる。ホンキの教育旅行・企業研修なら、

おいで、ニイガタ！

Educational Field Trip & Rural Homestay — Live. Learn. Explore.

知らなかったことに、ふれる旅。ホンキの教育旅行なら、おいで、ニイガタ！

来てみないとわからない、新潟そしてニッポンの本当の姿。新潟ならではの言葉や風景、土地の恵みの中で、五感を使って「日本のルーツ」を体験する。
夕食のお味噌汁がいちばんの思い出になるかもしれない。そんな可能性を信じて、わたしたちはみなさんをお待ちしています。

教育的効果を生む3つの軸



Inquiry-based Learning
探究学習

地域課題の「現場」に直接触れ、ネット検索やAIでは得られないリアルな問いを発見。
農家・漁師・行政担当者などとの対話を通じて、情報を鵜呑みにせず自ら考え判断する力を育みます。

×



Rural Homestay
農村ホームステイ

民泊体験を通して新潟の暮らしにふれる時間。
農家の食卓を囲み、日々の営みに入り込むことで価値観の変化が生まれます。
「なんだか新しいふるさとができたみたい」そんな感覚を持ち帰る体験です。

×



Hands-on Experience
体験活動

田畑に出る、山林に入る、海に赴く。
泥だらけになりながら地域の人に励まされる時間は、机の上では絶対に得られない五感の学びがそこにはあります。

4地域 探究テーマ別モデルケース



妙高市
自然×観光×環境再生国立公園マネジメント
観光と保全をどう両立？
生態系保全・自然ガイド同行・
ライチョウ保護活動



刈羽・柏崎
エネルギー選択×地域経済×レジリエンス
エネルギーの選択が地域の未来を変えるか？
原子力・再エネ比較・住民対話WS



長岡・十日町
棚田×伝統農業×スマート農業
100年後の米づくりをデザインせよ。
水管理・農業DX・大地の芸術祭



魚沼市
豪雪×インフラ×産業変換
雪室・発酵・除雪DX豪雪を負債から資源へ。
除雪DX・雪室保存・日本酒発酵

COLUMN 01 — SDGs × 探究学習

2030年目標の先へ ——地域で学ぶ、本物のSDGsのその先へ。

SDGsの17目標は、2030年を達成期限とした国際的な約束となっています。
新潟の農山漁村には、SDGsが掲げる課題がそのまま現実として存在しています。
棚田の水管理は「陸の豊かさ」、海の恵みは「海の豊かさ」、エネルギー選択は「クリーンエネルギー」——教科書の言葉が目の前の暮らしとつながった瞬間に、生徒が初めて「自分ごと」として動き始めます。
SDGsのその先に向き合う人材を育てるために、今こそ地域に出てみましょう。
2030年のSDGsの達成期限のあとにどんなアクションがあるのか。今求められる学びがそこにあります。

COLUMN 02 — AI時代の学びとは

正解のない世界で自ら判断できる力を育てる。

AIが検索も要約も提案もこなす時代に、教育が与えるべき力とは何でしょう。
それは「正解のない状況の中で自ら考え、判断し、行動する力」——情報を処理する力ではなく、問いを立てる力だとわたしたちは考えています。
環境を変え、地域のありのままに触れ合い、自分の感覚と他者の経験をぶつけ合うことで初めて可能性が見えてくる。
新潟の田んぼに入り、農家の言葉を聞き、泥の匂いを感じる——その非日常の体験の中にこそ、AI時代を生き抜く本質的な学びの種が宿っています。

Corporate Training & Workation — Beyond. Discover. Create.

目的地は新潟。でも、本当のゴールは“変化”です。境界を越え、新しい視点を見つけ、未来をつくる。

農山漁村での体験と地域の人々との交流が、個人と組織に新たな可能性をひらく。
ただの研修旅行ではない、価値観が揺さぶられ、人が変わり、組織が動き出す体験。それが新潟の越境学習の本質です。

越境学習がもたらす変化

Before

指示待ち・受け身の姿勢
自ら課題を見つけられず指示を待つ状態。問いを立てることが苦手で日常業務の範囲内でしか動けない。

部門最適・視野の狭窄
自社・部署の枠の外に視点が向かない。社会課題を「他人事」として捉え、ビジネスと社会のつながりを意識する機会が少ない。

個人作業・関係の固定化
チームの関係性が表面的なまま固定化。本音の対話や協働が生まれにくい。

＼＼ 新潟での地域体験 ／／

After

主体性が向上 Ownership
自ら課題を設定し行動に移すオーナーシップが育つ。現場での実感が主体性の源泉となる。

視野が拡大 Autonomy
社会課題を"自分ごと化"する意識が芽生え、柔軟な判断力と多角的な視点を獲得。自社の社会的意義を再定義するきっかけに。

関係性が変化 Reflection
体験→振り返り→行動変容のサイクルが生まれ、チームの結束力と対話の質が向上。

導入事例

CASE 01
十日町市
棚田エリア



棚田で学ぶ、未来志向のチームビルディング

大手上場企業A社 ／ 若手～中堅15名 ／ 2泊3日＋事前事後学習
Day1 地域課題ロールプレイ・市役所職員との対話
Day2 棚田稲刈り・農家との深夜対話
Day3 振り返りWS・アクションプラン策定

＼ 参加者の声 ／
- 現場の課題のリアルさに衝撃。自社でも何かできる気がした。
- 稲刈りでチームの結束力が高まった。

CASE 02
妙高
Cross Career Program



キャリアの視野を広げる越境学習プログラム

異業種リーダー ／ 2泊3日＋事前課題・振り返りMTG
Day1 「自分を知る/夢を語る」異業種対話
Day2 野生動物保護講義・ジビエ料理体験
Day3 キャリアプラン策定WS

＼ 参加者の声 ／
- 『ゆっくり』も多様性を生むという視点は今までになかった。
- 多様な価値観を認識した上で対面する重要性を学んだ。